

平成30年度研究推進計画

海田町立海田南小学校

校長 重森 栄理

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成

～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくりのあり方～

〈生活科・総合的な学習の時間と道徳科の関連を図った、考え、議論する道徳科の充実を目指して〉

2 主題設定の理由

本校は、平成28年度より広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校事業」実践指定校の指定を受け、昨年度までの2年間、主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成を目指し、「課題発見・解決学習」の単元開発及び授業改善に取り組んだ。

昨年度は、「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成」を研究主題に、国語科、算数科、生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進め、「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組み、国語科7本、算数科7本、生活科3本、総合的な学習の時間4本、その他の教科において5本を開発した。その際、本校児童の実態に即して、「主体性」「思考力・表現力」「自己理解」の3つの育成したい資質・能力を設定し、主体的に学ばせ、課題を解決するためのドリンプラン（単元構成案）、考え方を身に付けさせ、思考を深めるための思考ツール、自己の学びをメタ認知させるための学びのモニタリング（単元末における振り返り）に視点を当てた授業研究を進めた。児童の学びを深めるための発問の工夫や思考の足跡の残るノート指導、発達段階に応じた話型の指導に取り組んだ。その結果、児童が「やってみよう」という意欲をもって学習に取り組み、進んで自分の考えを表現できるようになってきた。また、総合的な学習の時間においても地域の学習材を活用した単元開発を行った結果、学習における課題を児童が自分事としてとらえ、学びを深めることができるようになってきた。学習材が児童にとって興味深く、自分事としてとらえることができるような単元では、児童の協働的な活動が有機的に機能し、考えを深めることができることが明らかになった。

しかし、根拠を明確にして発言したり、互いの考えを深め合ったりすることが不十分であるという課題が見えてきた。また、学習材が児童にとって興味がない学習では、自分に引き付けてとらえることができず、主体的に学ぶことができないこともある。

さて、本校がめざす道徳教育における児童の重点としては、「尊敬・感謝」「礼儀」「郷土愛」を軸にこれまで取り組んできたが、あいさつ運動や清掃活動など教師が用意した活動には熱心に取り組む姿が見られるようになったものの、それ以外の活動場面ではその意義を理解したり感じ取ったりすることができず主体的になれずにいる児童も多いということも、課題である。児童一人一人の心を耕し、児童が主体的によりよく生きようとする態度を育むことが必要であることを強く感じている。

そこで、本年度から新設された道徳科との関連を図りながらこれまで積み上げてきた生活科、総合的な学習の開発単元をブラッシュアップし、道徳科の授業の充実を目指すこととした。

「特別の教科 道徳」編では、道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることを通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示している。平成28年7月に行われた「道徳教育に係る評価等のあり方に関する専門家会議」では、これからの時代を生きる子供たちには、自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者との議論を重ねて探求し、「納得解」を得るための資質・能力が求められるとし、道徳性を育むことの重要性を示している。さらに、道徳教育の質的転換を図るには、児童生徒の現状や実態を踏まえた効果的な指導を通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的諸価値について多面的・多角的に学ぶ」ことが必要であると示している。

これらのことから、他者と向かい合い議論することで、多様な考えに触れたり、自分の考えと比べたりし、より深く自己を見つめ、価値の深まりや価値変革が見られ、主体的により良い生き方をしようとする態度が育まれるのではないかと考える。本研究では、他者とのかかわりを通して、自己を深く見つめ、価値を深めるための「考え、議論する道徳科」の充実を図ることを研究の柱とする。ここでの「充実」とは、「他者とのかかわりの中で自己を見つめ、道徳的価値に対する理解を深めることができること」と考える。

3 研究仮説

生活科や総合的な学習の時間と道徳科の関連を図り、考え、議論する道徳科の授業を充実させるための工夫を行えば、他者とのかかわりの中で自己を見つめ、道徳的価値の理解、道徳的実践意欲の向上を図ることができ、互いに高め合おうとする児童を育てることができるであろう。

4 研究内容

(1) カリキュラムマップのブラッシュアップ

昨年度、生活科と他教科・領域、または総合的な学習と他教科・領域の関連を図ったカリキュラムマップを作成し、完成している。これをベースにし、さらに良いものになるように加筆・修正を加える。例えば、時期の入れ替え、単元の入替え、道徳科教材の選択等、児童の実態に合わせブラッシュアップしていく。

年度末にカリキュラムマップを見直したものと単元の学習指導案を提出すること。

(2) 道徳学習プログラムの作成

道徳学習プログラムとは、体験活動と道徳科の授業を関連させ、道徳科の授業において、児童が自分とのかかわりで道徳的価値のよさを実感し、道徳的価値の自覚を深め、その後自発的、自律的な道徳的実践（道徳科の学習が実生活で生かされる実践）ができるようにするプログラムのことである。本年度は道徳学習プログラムを作成するとともに、児童用の学習シートを作成する。学習シートの作成要領は道徳教育推進担当より、別途提案される。

2学期末までに、全学年1道徳学習プログラム以上を提出すること。

(3) 道徳科ノートの工夫

児童が使う「道徳科ノート」を作成する。ノートでもファイルでもよい。様式は問わない。実態に応じてどのようなノートが有効か試行錯誤しながら探っていく。この「道徳科ノート」

には(2)の学習シートを蓄積したり、毎時間児童が考えや思いを記述したりするのに使う。児童自身が自己内対話のためのツールとして利用したり、自分の変容に気付いたりすることができるよう、工夫すること。

5月初旬までに用意し、1学期末と2学期末の検証時にも使用すること。

(4) 考え・議論する道徳の工夫

各公開授業(全体授業研究、ブロック授業研究)において考え・議論する道徳にするために、本時ではどのような工夫を行うのかを指導案に明記する。なお、指導方法の工夫には様々なものが考えられるが、児童の発達の段階に応じ、例えば資料を提示する工夫、発問の工夫、話合いの工夫、書く活動の工夫、表現活動の工夫、板書を生かす工夫、説話の工夫などが考えられる。

5 研究方法

(1) 理論研修

(2) 授業研究

年3回全体授業研究(低・中・高ブロックより各1回ずつ)を、各ブロック内で3回のブロック授業研究を実施する。授業実践を参観し、協議の柱に沿って授業分析を行うことで、研究主題に迫る授業づくりをする。

協議の柱

- | | |
|----|--|
| 柱1 | 生活科や総合的な学習の時間と道徳科の関連を図った道徳学習プログラムの工夫には、どのような効果があったか。 |
| 柱2 | 考え、議論する道徳科の充実の工夫には、どのような効果があったか。 |

授業研究のもち方については、次の通りとする。

①全体研究授業

- ・原則として授業の6週間前までに指導案作成をし、稟議を諮る。
- ・必要に応じて、事前研究のために模擬授業を行う。
- ・授業記録は学年部で、協議会の司会、記録、会場準備は教務部で行う。
- ・記録者は協議会終了後、授業記録及び協議会記録を整理する。
- ・授業者は単元終了後、成果と課題を整理する。
- ・全体研究授業の前後に、各学年で授業研究を行う。
- ・初任者研修の師範授業等と兼ねることができる。
- ・参観者は校長または教頭、初任者、実践指定校担当教員、授業者所属の低・中・高学年ブロックとする。
- ・授業後、研究授業参観者と研究主任で協議会をもち、成果と課題を明らかにする。
- ・授業者は単元終了後、成果と課題を整理する。

6 検証計画

(1) 研究授業の検証

柱1の検証方法・・・児童の発言や、道徳ノート等の記述

- ・道徳科の授業の導入で、児童が自分事として考えテーマをもって学習しようとしているか、児童の発言や、道徳ノートの記述から検証する。
- ・道徳科の授業後の児童の実践意欲について、学習シートの記述等から、児童の変容について検証する。

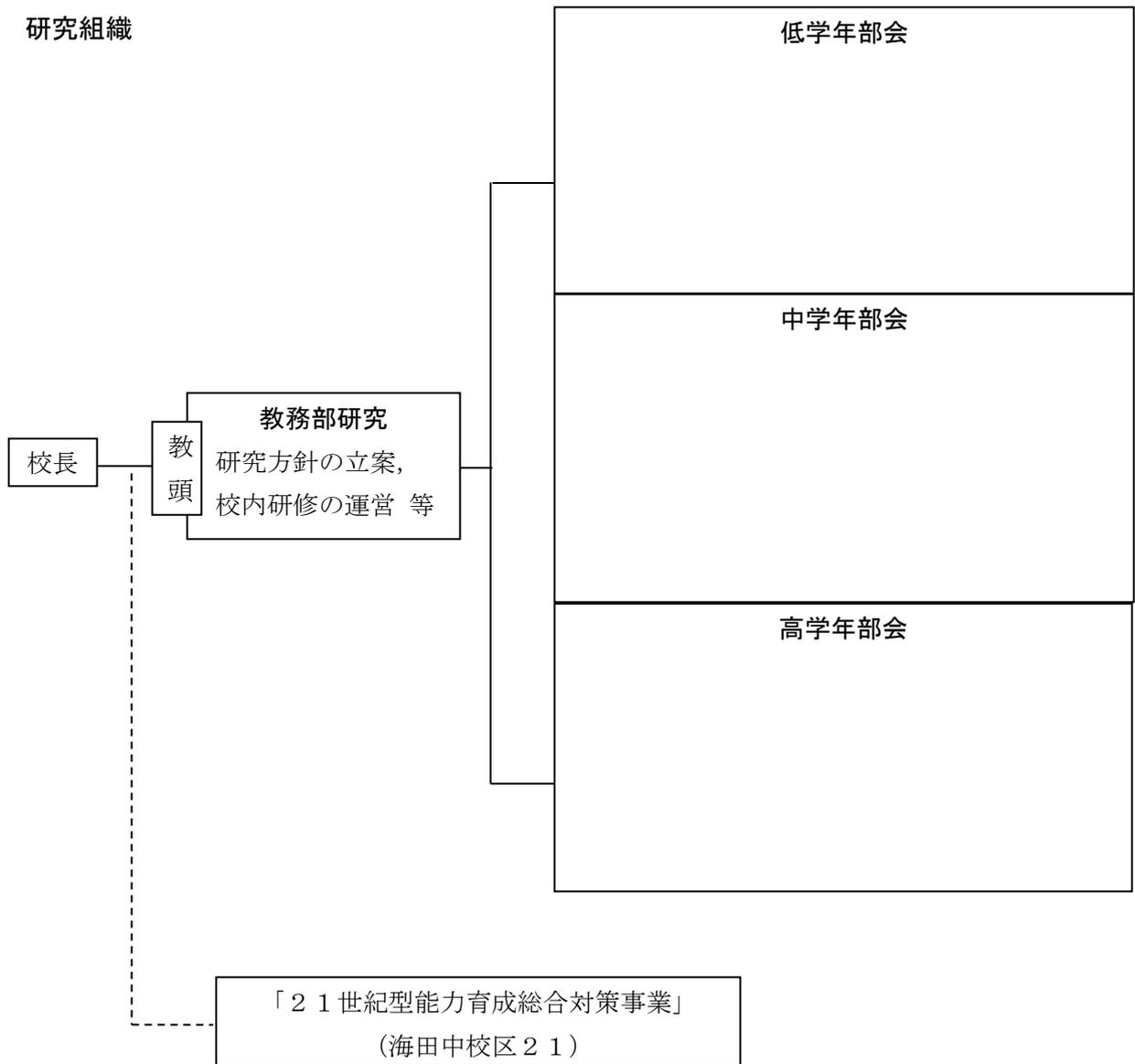
柱2の検証方法・・・児童の発言や、道徳ノート等の記述

- ・公開された授業研究のビデオ撮影を行い、児童の発言や様子を記録として残し、教師自身の振り返りに生かす。
- ・児童の道徳ノートの記述内容から、児童の変容を知る手がかりとする。

(2) 児童及び教職員の意識調査の実施と分析

- ・年2回のアンケートを実施し、教務部が分析する。

7 研究組織



8 研修計画

月	日	曜	研 修 内 容
5	2	水	校内研修（今年度の取組について）
5	16	水	理論研修（目指す児童像の設定）
5	23	水	服務研修
5	30	水	全国学力・学習状況調査についての研修（分析・今後の取組）
5	下旬		（5月下旬～6月上旬）アンケートの実施
6	7	木	中学年ブロック研（3年3組事前授業）
6	20	水	授業力向上研修①（海田小）
6	28	木	授業研究（3年1組 道徳科）兼海中21 ※学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業②
7	4	水	授業研究（通級指導教室 特別支援学級〈知的 肢体 不自由情緒〉）
7	24	火	10月10日公開研の指導案検討① 【5年1組 総合】 ※学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業② 【6年1組 道徳科】 ※学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業②
7	25	水	スクールカウンセラーのメンタルヘルス研修 （13：15～14：15） 若手育成研修その1
7	26	木	1学期の研究結果検証 若手育成研修その2
7	27	金	10月10日公開研の指導案検討② 若手育成研修その3
8	6	月	授業力向上研修2
8	9	木	10月10日公開研の指導案検討③
9	5	水	ブロック研修（9月20日の道徳参観日に向けて模擬授業）

9	14	水	授業研究（4年1組 総合的な学習の時間） 学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業②
9	中旬		アンケートの実施
9	19	水	服務研修
10	3	水	海中21公開研究会報告発表に向けた事前研修
10	10	水	海中21公開研究会
10	24	水	授業研究（1年1組 道徳科） ※学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業②
10	31	水	服務研修
11	21	水	授業研究（2年 道徳科） ※学年部で指導案検討→事前または事後授業①→事前または事後授業②
11	21	水	服務研修
12	5	水	服務研修
12	19	水	2学期の研究結果検証
12	上旬		アンケートの実施
1	9	水	服務研修
1	18	金	海中21授業研究（参観）
2	4	月	海中21授業研究（参観）
2	13	水	服務研修
2	20	水	本年度研究のまとめ
2	27	水	次年度の方向付け
3	6	水	服務研修
			グローバル授業研究（3・4・5・6年のうち外国語活動または英語科1本 日程未定（7/13 または 11/14 または 2/1） ※学年部で指導案検討→必要に応じて事前授業

指導主事の学校訪問にかかる授業研究①

(3年3組 算数科)

日程未定 (11/21 または 10/17 または 10/13)

※学年部で指導案検討→必要に応じて事前授業

指導主事の学校訪問にかかる授業研究②

(4年3組 特別活動)

日程未定 (1/23 または 12/5 または 12/12)

※学年部で指導案検討→必要に応じて事前授業